

課 題	26 人工造林低コスト育林技術体系の確立			開発期間	平成8年度～平成17年度		
開発箇所	三光山国有林594わ 2.14ha	担当部署 森林技術センター	共同 研究機関	技術開発 目 標	3(4)	特定区域 内 外	○
開発目的 (数値目標)	低コスト育林技術資料の収集及び分析を行い、適地判定、育林方法等のパターン化による低コスト育林技術の体系化を図る。						
実施経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育作業の中で最も作業比率が高い下刈作業に着目し、低コスト育林技術を検討するため、平成10年度に試験地を設定した。 ・ 下刈区 0.84ha、無下刈区 0.36ha、根元被覆区（チップ）0.53ha、根元被覆区（マット）0.41ha、計 2.14ha スギ、ヒノキ各 3,000 本/ha 植栽。 ・ 平成11年度～平成16年度まで下刈実施（下刈区） ・ 平成12年度、ウサギの食害が発生したため、食害箇所（ヒノキ 450 本）に新聞紙を巻き、食害を防止した結果、食害発生は見られなくなった。 ・ 平成11年度～平成17年度まで、生長量調査を実施した。 <p>* 各年度の生長量調査結果（別紙のとおり）</p>						
開発成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・ スギの根元径及び樹高の生長量は、チップ区・マット区と、下刈区の差異がないデータが得られた。無下刈区については、根元径、樹高ともに生長が悪い。 ・ ヒノキの根元径の生長は、チップ区・マット区と、下刈区との差異がないが、無下刈区は生長が鈍化した。 ・ ヒノキの樹高の生長については、チップ区、マット区、無下刈区、下刈区とも生長差が少ない。 ・ 以上のことから、生長面で見ると、スギ、ヒノキとも、根元被覆区（マット・チップ）と下刈区ではほとんど差異がないが、無下刈区では、スギの生長は良くないことが分かった。 ・ コスト面での比較では、根元被覆（マット・チップ）では初期の投資が必要であるが、下刈にかかる経費と比較した場合には、ほぼ同じレベルとなった。 ・ 平成15年度「森林・林業交流研究発表会」にて発表 						